

平成20年度

《第3回》

国語

時間50分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一 次の文を読みあとの問いに答えなさい。

《一年の計はアガタンにあり》などというように、一年の節目として、日本人は正月をことのほか大切にしてきました。正月には年神様という新年の神様が各家庭に降りてくると考えられ、その年の幸運を授けてもらうために①様々な習慣が定着しました。

現在、多くの伝統的な習慣が忘れられていくなかで、初詣や雑煮を食べる習慣など、正月行事は、いまだに多くの日本人が大切に守りつづけています。

正月に餅を食べる習わしは、中国で、飴を食べる習慣にあやかっって*宮中で「歯固め」の儀式として始まったことに由来するといえます。

もともと餅は*ハレの日に、神様に捧げるウ神聖な食べ物と考えられており、室町時代以降、正月に年神様に供える目的で②現在のような鏡餅が定着していったといわれます。

鏡餅といわれる理由は、昔の鏡が円形だったためで、人の魂（心臓）を模したことから、丸餅になったといわれます。また、大小二つ重ねあわせるのは、月（陰）と日（陽）を表していて、福徳が重なった縁起がいいと考えられたからともいいます。

大小二つに重ねられた鏡餅は、半紙を敷いた三方（三方の側面に穴のある四角形の台）に載せ、ダイダイ、ユズリハ、昆布などを添えるの一般的です。特に、昆布には子孫繁栄の願いが込められています。

この鏡餅用に、多くの家では年末になると餅つきをしましたが、十二月三十一日の大晦日につくのを一夜餅、また十二月二十九日につくのを苦餅といって、これらの日につくのを嫌いました。

正月中は一月十一日の鏡開きまで、家の床の間などに大きな鏡餅を飾り、各部屋に小さな鏡餅を飾るのが一般的です。

一月十一日は、正月に供えた鏡餅を下ろして③鏡開きをします。

鏡開きは、神霊が刃物を嫌うため包丁を使わずに手や木槌などで鏡餅を割り、雑煮や汁粉にして食べる行事です。

昔の武家では、鏡餅を雑煮や汁粉にして、主君と家来たちがそろって食べ、商家でも、主人と従者たち、さらには家族も加わって一緒に食べたというので、どちらの場合にも、家族や主従の親密さを深めることに意味があったと思われる。

当初、鏡開きは一月二十日に行っていました。江戸時代になって徳川家光の忌日が二十日に当たることから、商家が行っていた蔵開きと同じ十一日に変更したといわれます。

近ごろでは、こうした鏡開きの行事を見かけることは少なくなりましたが*講道館をはじめ、剣道・柔道などの道場では、いまでもこの日、寒稽古を行った後に鏡餅を雑煮や汁粉にして食べる習慣が残っています。

戦後、驚異的な復興をとげ、世界に冠たる経済大国となった日本。その過程で日本人は、あらゆる便利なモノを生み出し、ひたすら生活の快適性を追い求めてきました。しかし、その一方で、④それまで大切に育み、受けついできた伝統を置き去りにしてしまった面があるのも、また事実でしょう。

そもそも日本はエノウコウを主たるオ生業とし、四季の自然にも恵まれていたため、季節の移り変わりを非常に大切にしてきました。一年のうちいくつものハレの日を置き、日々の生活に変化と潤いを与えてきたのです。そして、自然そのものに感謝をし、自然とともに生きる自分たちの生活の安泰を願ってもきました。

さらに、人生の節目節目にも、さまざまな行事を執り行ってきました。誕生・成人・長寿など、それぞれの成長過程を祝いつつ、自分たちの祖先に深く感謝し、代々の繁栄を祈ってきたのです。

そのような歴史から生まれた年中行事やしきたりは、日本人が長い歴史のなかで培ってきた、まさにA

であり、Bの表れでもあったのです。

いまやさまざまな年中行事が忘れられ、また*形骸化していくなかで、もう一度⑤それらの原点に触れてみることは、日本人の豊かな人生観を再発見するきっかけになるはずです。

※ 宮中 …… 皇居・宮殿の中。

ハレの日 …… ふだんから待ち望んでいる、めつたにない機会。

講道館 …… 人を多く集めて、儀式・講話をする場所。

形骸化 …… 見せかけだけのものとなること。

（飯倉 晴武『日本人のしきたり』より一部改訂）

問一 二重線部ア～オのカタカナを漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

問二 この文章は大きく三つの段落に分けられます。第二、第三段落の初めの五字を答えなさい。(句読点も字数に含めます)

問三 傍線部①「様々な習慣」とありますが、日本の正月行事が最も具体的に述べられているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい

- ア 初詣や雑煮を食べる習慣。
- イ 「歯固め」用の飴を食べる習慣。
- ウ 年神様に幸運を授けてもらう習慣。
- エ いくつもハレの日を設ける習慣。

問四 傍線部②「現在のよような鏡餅」とありますが、本文中で示されている鏡餅の種類を二つ答えなさい。

問五 傍線部③「鏡開き」とありますが、鏡開きをすることにどのような意味があったと思われるか。本文中から十五字で抜き出さない。

問六 傍線部④「それまで大切に育み、受けついできた伝統」とありますが、伝統ではないと思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 季節の移り変わりを非常に大切にしてきたこと。
- イ 自然そのものに感謝してきたこと。
- ウ 自然とともに生きる自分たちの生活の安泰を願ってきたこと。
- エ 自然を大切にしながら、生活の快適性を求めてきたこと。

問七

A	・	B
---	---	---

に入る適切な組み合わせを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A 生活の知恵 B 不足した人生観
- イ A 生活の知恵 B 豊かな人生観
- ウ A 生活の便利化 B 不足した人生観
- エ A 生活の便利化 B 豊かな人生観

問八 傍線部⑤「それら」とありますが、それらの指示する内容を本文中から十字以内で抜き出さない。

問九 本文の内容に合うものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの伝統的な習慣が忘れられていく中で、正月行事に関してはいまでも全ての日本人が大切に守り続けている。
- イ 正月に餅を食べる習わしが中国の習慣からあやかったように、他国からあやかったならわしが日本には多くある。
- ウ 年末恒例の餅つきは、鏡餅用のためだけに行われているが、現在では、鏡餅を作っていない家庭も多いといえる。
- エ 以前、鏡開きは一月二十日に行われていたが、徳川家光の忌日と重なり、一月十二日に変更されたといわれている。
- オ 日本人は生活の快適性を求めてきたため、大切に育み、受け継いできた伝統を置き去りにしてしまった面もある。
- カ さまざまな年中行事やしきたりに触れることで、日本人の豊かな人生観を再発見するきっかけとしてもらいたい。

二、次の文を読みあとの問いに答えなさい。

【「私」は家政婦であり、ある日から「博士」と呼ばれる老人の家で仕事をするようになった。「博士」は記憶障害を持っていて、八十分しか記憶が保つことが出来ない。以下の文章は、「私」の息子である「ルート」が、博士から出された宿題を見せる場面。】

$$1+2+3+4+5+6+7+8+9+10=55$$

博士はルートの書いた足算を、高度な証明の一行をA吟味するかのようになり、じつと見つめた。何のために自分が宿題を出したのか、ラジオを修理するとはどういうことなのか、記憶をたどれない代わりに、その足算の中から答えを導き出そうとしているのだった。

博士はいつでも、八十分以前の出来事について、私やルートにできるだけ質問しないよう気を遣っていた。宿題とラジオの修理が何を意味するのか、一言聞いてくれればすぐに説明してあげるのに、現状からどうにかして手がかりを見つけ、自分一人で解決しようとアツトめた。元々優秀な頭脳の持ち主なので、自分の病気についても、それだけ深く理解していたのだろう。プライドを守りたいというよりは、ごく当たり前の記憶の世界に生きる人々の邪魔になるのが、申し訳なくてたまらない、という様子だった。だから私も余計な口出しをしないことに決めていた。

「ほお、一から10までの足算だな」

「ね、合ってるでしょ？何回も筆算して見直したから、自信あるんだ」

「正解だ」

「やった。じゃあ、今からラジオを電気屋さんを持って行って、直してもらおうよ」

「ちよつと待ちなさい、ルート君」

時間を稼ぐように博士は咳払いをした。

「君がどういうやり方で正解を導いたのか、説明してもらえないだろうか」

「そんなの決まってるじゃない。順番に足していったのさ」

「正直な方法だ。誰からも後ろ指さされない、堅実な方法だ」

ルートはうなずいた。

「しかし、考えてみてほしい。もし、もつと意地の悪い先生がいて、一から100までの数を足しなさい、と云ったらどうする？」

「……やっぱり、足算するよ」

「そうだな。君は素直だからね。そのうえ粘り強いし、根性もある。だから一から100までになっても、きっと正解にたどり着けるだろう。でもその先生は悪魔みたいな奴で、君を困らせるために、一から千までなら？万までなら？と、次々問題を出してくるかもしれない。で、正直者のルートがうんうん唸りながら、長い長い足算に苦しんでいるのを見物して、高笑いするんだ。そんなのに君、耐えられるかい？」

ルートは首を横に振った。

「そうだと。悪魔先生に大きな顔をされてたまるもんか。奴をぎやふんと言わせてやろうじゃないか」

「……つまり、どうしたらいいの？」

「どんなに数字が大きくなっても大丈夫な、もつと簡単な計算方法を見つけてよう。それが見つかったら、ラジオを持って一緒に電気屋さんへ行こう」

「えっ、そんなのずるいよ。約束と違うじゃないか。ずるい、ずるい、ずるい」

ルートは足をばたばたさせた。

「おイギョウギよくしなさい。赤ん坊じゃないんだから」

と、私はたしなめた。しかし博士はいくらルートに責められようとも悠然としていた。

「正解さえ出せば宿題は終わり、というものではない。55へ到着する、もう一つ別の道順があるんだぞ。そこを通ってみたいと思わないかい？」

彼はまだふくれていた。

「よし、こうしよう。僕が予想するに、あのラジオは相当古いから、たとえ今日修理に出しても、音が出るまで

には何日もかかるはずだ。ラジオが戻ってくるのが早いかな、君が新しい道順を見つけてるのが早いかな、競争するっていうのはどうかな」

「うん……でも、はつきり言って、自信ないよ。一から10までの数を足すのに、他のやり方があるなんて……」

「おやおや、どうした。そんなに弱虫だとは知らなかったぞ。挑戦する前にもう降参するのかい？」

「分かった。やってみる。でもラジオが直るのに間に合うかどうかは、ウホシヨウできないよ。僕だっている、忙しいんだからさ」

「よしよし」

いつものとおり、博士はルートの頭を撫で回した。それから、

「あつ、いけない。3. 大事な約束だから、忘れないようにちゃんと書いておこう」

と言って、メモ用紙を一枚ちぎり、鉛筆で要点を書き込み、背広の衿（しり）のわずかな隙間にクリップで留めた。

普段の生活で見せる不器用ぶりとは比べものにならない、慣れた仕事だった。エ 熟練した手つきと言ってもいいくらいだった。新しいメモはすぐさま、他の数々のメモたちの中に溶け込んだ。

「野球中継が始まるまでに宿題をオスマせること。夕食の間はラジオを消すこと。博士のお仕事の邪魔はしないこと。いい？それだけは約束よ」

私が釘を刺すと、ルートは面倒そうに、うん、うんと返事をした。

「言われなくてもそれくらい分かっているよ。今年のタイガースは強いんだ。二年連続最下位だった去年までとは訳が違う。開幕のジャイアンツ戦を勝ち越したんだからね」

「そうか。阪神は調子がいいのかわ」

博士は言った。

「で、江夏の防御率は、今いくつかな」

ルートと私の顔を交互に見やりながら、博士は質問を続けた。

「奪三振はいくつになってる？」

「江夏はトレードされたよ。僕が生まれる前に……それに、引退したんだ」

えっ、と絶句したきり、博士は動かなくなった。

これほど驚き、動揺した彼を目の当たりにしたのは初めてだった。自分の記憶でカバーしきれない事柄が、いくら唐突に浮上してこようと、いつも心静かに受け止めていたのに、今回ばかりは勝手が違っていた。その場をどう取り繕（とぎや）っていいのか、見当もつかない状態に陥（おとろ）っていた。そんな博士を見て、いかに自分がひどいことを口にしてしまったか悟り、同じようにショックを受けているルートのことを、思いやる余裕さえなくしていた。

「でも……カープで活躍して……日本一にもなったんですよ……」

少しでも博士の気持ち落ち着かせたいと思（おも）い、そう言い足してみたが、むしろ逆効果だった。

「何？カープだつて？なんてことだ。江夏が縦縞（たてしま）のユニフォーム以外を着るだなんて……」

彼は仕事机に両肘（りょうひじ）をつき、散髪屋さんできれいにしたばかりの髪をかきむしった。算数のノートに髪（かみ）の切りくずがパラパラと落ちた。今度はルートが博士の頭を撫でる番だった。自分のしでかした過（とが）ちを償（つぐな）おうとするように、ルートは乱れた髪を撫でつけた。

「博士の愛した数式」 小川洋子

問一 二重線部ア～オのカタカナは漢字に改め、漢字は読みを答えなさい。

問二 波線部ABCの言葉の意味として適切なものを次のア～エの中から一つ選び記

号で答えよ。

A 吟味する

ア よく理解する

イ すぐ暗算する

ウ 細かく調べる

エ よく味見する

B 後ろ指さされない

ア 他人から非難されない

イ 誰からも理解されない

ウ 誰からも反対されない

エ 誰からも同意されない

C 釘を刺す

ア 相手に攻撃する

イ 相手に指導する

ウ 相手に念を押す

エ 相手にゆだねる

問三 傍線部1「悪魔先生」とはどんな先生ですか。具体的に示されている表現を文中よ
しなさい。

り七字で抜き出

問四 傍線部2「約束」とはどんな約束だと考えられますか。次のア～エの中から適切な
記号で答えなさい。

ものを一つ選び

ア 博士からの足算の宿題ができたら、博士を病院に連れて行く約束。

イ 博士からの足算の宿題ができたら、博士を散髪に連れて行く約束。

ウ 博士からの足算の宿題ができたら、一緒に野球を観戦する約束。

エ 博士からの足算の宿題ができたら、ラジオを修理しに行く約束。

問五 傍線部3「大事な約束」とは何ですか。次のア～エの中から適切なものを一つ選
び記号で答えな
さい。

び記号で答えな

ア ラジオが直るまでに新しい計算方法を見つけること。

イ 野球中継が始まるまでに宿題をスませておくこと。

ウ 夕食を食べている間は、ラジオを消しておくこと。

エ 何があっても、博士のお仕事の邪魔をしないこと。

問六 傍線部4「それにもう引退したんだ」という言葉に込められたルートの気持ちとし
中から適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

て次のア～エの

ア 江夏のことを気にする博士に対して、何気ない軽い気持ち。

イ 江夏のことを知らない博士に対して、事実を正確に伝えようという気持ち。

ウ 約束を守らない博士に対して、嘘をついて驚かせてやろうという気持ち。

エ 約束を守らない博士に対して、知らない事実を伝え優越感にひたろうという気持ち。

問七 傍線部5「自分のしでかした過ち」とは何か。次の説明文の()に合う言葉を文
内で抜き出さなさい。

中より十五字以

自分が博士に対して ()

() こと。

問八 「ルート」はどのような人物であると思われるか。三十字以内で説明しなさい。